



【強みを生かした計画書作成に向けて！】



鹿児島大学 法文学部法経社会学科 地域社会コース

3年 山下真未

提示された課題

「パソ谷山地域交流センター」における
強みを生かした
ブックラウンジの事業計画書作成

作成の目的

- <地域の何でも屋さん> ならではの事業とは…？
- 福祉分野を専門とする慶生会だからこそできる事業計画に！
- 多くの人に利用してもらうためにはどのようなコンセプトが適当か？

ブックラウンジ事業計画書作成に当たって

- 「谷山地域交流センター」の強み
 - ① 谷山駅のすぐ近くに→通勤通学者、駅付近に暮らす人の利用
 - ② 福祉分野を専門とする慶生会の運営→福祉分野を生かした運営
 - ③ テナントを導入しないオリジナルの事業展開→谷山に密着した運営
 - ④ ブックラウンジ以外にも子供の遊び場・温泉・ワイナリー・高齢者施設など利用対象が多岐にわたる→多くの利用者のニーズにこたえた運営

担当者様からの
情報提供から発見！



←パソ松ヶ尾館
(慶生会ホームページより。)

コンセプト<日常の一部となるブックラウンジ>

特に②に関して、「強みを活かしている」との評価をいただきました。

- ① カフェ・リラックススペースの併設
- ①・③ 谷山駅周辺にはない自習スペースの設置
- ② 福祉分野に関係する本を積極的に扱う
- ④ ターゲットを高齢者・学生・通勤通学者に分け、それぞれのニーズに合わせた事業の提案



～インターンを振り返って～

強みを用いて事業の提案を行うことはできたが、分析法などを用いて現実的に実現可能か説得力を持たせられなかった。

普段の学習において金銭面について、ターゲットの推定を行うことがなかったため、実際に事業を考える際はこのようなことにまで目を向ける必要があるのかと刺激を受けた。学校では絶対にできない貴重な経験であった。